

新年賀詞交歓会

東部ファスナー協同組合は、去る1月21日木曜日5時30分から、鉄二健保会館において新年賀詞交歓会を開催しました。東京鋳螺協同組合今西理事長様をはじめとして多数の来賓の方々にもご来臨願い盛大な新年会となりました。



森久保理事長の新年の挨拶は下記の通りです。

皆様、明けましておめでとうございます。

平素より皆様には、当組合運営に格別なるご理解ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。本日はまた、お忙しいなか東京鋳螺協同組合の今西理事長様をはじめ多数の方々のご出席を賜り、重ねてお礼を申し上げます。



さて、昨年を振り返りますと、言うまでもなく製造業にとっては大変厳しい一年でありました。本年は、私達にとっていわば正念場ではないでしょうか。

特に日本ではこの数年、われわれ製造メーカーにとって大切な原材料、副資材の価格が下がり原料高の製品安を強いられてきました。また人件費は世界で一番高い最低賃金になろうとしています。しかも日本経済は、既に、成長期から安定期に移り、ヨーロッパ型の経済に近づきつつあります。国の財政難から公共事業も減少し、高いGDPは望むべくもありません。言い換えれば、数年前の売上げ上昇率は望めないと考えた方がよいのではないのでしょうか。必然的にメーカーは、製造経費を一段も二段も考え直さなければならない一年になると言っても過言ではないと思います。

この度、皆様ご承知の通り、日本を代表する大企業・日本航空が会社再生のために、会社更生法に準拠した手続きを申請をしました。経営体質を大きく変化させ、早急に改革をしなければならなかったのに出来なかったからだとしり上げても良いと思います。現在、世界中で安い航空券がいくらでも売られています。特定期間を除けば、台湾、韓国便などは日本からの往復券が2万円を下回っていて何時でも購入できます。東京大阪間の新幹線の運賃より安い価格です。これは需要と供給の原理で、世界経済は既に急速に変化していることを示しているのではないのでしょうか。ねじ業界も埒外ではありません。今一層に世界経済の情報に注意を払い、それにとりなう企業努力が欠かせなくなってきたことを再認識しなければならないと思います。

日本はバブル崩壊後、数年前のミニバブルを経て現在は急激なデフレ経済に陥り込んでいますが、これは戦後の円安によるイビツな経済発展のため、世界に比べて衣食住に関連する物価が高騰し過ぎたあとの、いわば日本が調整期に入ったと思った方が正しいと私は思います。一例ですが、普通に生活するためにアメリカで百ドルを持って出かけるのと日本で1万円を使うのでは大きな差が今でも感じられます。皆様の中で、ユニクロで買い物をされた方は感じられると思いますが、衣類をかなり買ったつもりで支払いに1万円を出し、思っていた以上に釣り銭があって驚く、あの様な感覚だと思っていただければ分かり易いと思います。

このような厳しい経済環境の中で今年も戦って行くわけではありますが、皆様がお持ちの経営手腕をフルに発揮していただき、また国の助成金制度などを大いに利用しこの苦境を乗り切って行きたいと思えます。

現在の組合活動につきましては、組合員が減少するなか催行する事業も限りがありますが、理事会の皆様また顧問相談役の皆様のご意見も頂きながら有効な事業活動をして参りたいとおもいます。

企業も組合も継続することに意味がございます。ねじ企業が鍛冶屋さんから変化し現在に至ったように、組合活動も時代の変化に遅れることなく変わらなければなりません、今後とも皆様のご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今後とも皆様の企業のますますのご発展とご繁栄を祈念致しまして、ご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

東部ファスナー協同組合 理事長 森久保豊裕